

伝統音楽演奏會

地歌・箏曲その一

企画構成

野坂恵子

昭和五十一年六月二十三日(水)午後七時開演・青山タワーホール(地下鉄銀座線外苑前下車)・入場料千二百円

一、八千代獅子 作者不祥(現曲尺八一節切)

胡弓手付 政島 檢校
 三絃手付 藤永 檢校(寛永年間)
 作詞 園原 勾当
 替手手付 国山 勾当
 *今夕のために
 四拍子手付 藤舎 成敏
 編曲 畦地 慶司
 構成 三木 稔

箏 高 音池 上 早苗
 箏 低 音池 上 早苗
 十七絃 花房 持和 枝
 琵琶 山田 美喜子
 三絃 砂崎 知子
 胡弓 畦地 誠山
 尺八 坂田 誠山

笛・能 小 鼓 望月 太 鼓 藤舎 成敏 大 鼓 高尾 橋崎 明邦

二、残 月 作・峰崎勾当(天明・寛政年間)

*今夕のために
 能管手付 三木 稔

歌(客演) 原田 茂生

三 絃 野坂 恵子
 能 管 望月 太八

三、黒 髪 伝・作・杵屋佐吉(天明年間)

伝・地唄手付 湖出 市十郎

歌(客演) 砂原 美智子

三 絃 野坂 恵子

四、屋嶋を素材とする即興的変容

*今夕のために
 「屋嶋」 作・藤尾勾当(寛政・安永年間)
 歌詞改訂 鶴田錦史・達 光史

歌(客演) 鶴田 錦史

箏 野坂 恵子

五、吾妻獅子 作・峰崎勾当(天明寛政年間)

三絃替手手付 石川 勾当(文政年間前後)

歌 坂井 敏子
 地歌三絃替手 杉浦 弘和

三 絃 本手 砂崎 知子
 尺八 宮田 耕八郎

プロデュースにあたって 野坂恵子
 伝統的な地歌・箏曲の演奏に際し、現在最も重要視されているのは、いかに正確に「型」を伝えるか、一音も規定の枠からはみ出さずに弾き切るか、ということだと思ひます。これは古典の「継承」の為には必要欠くべからざるものです。――が、音楽は現に生きている人間の喜怒哀楽にも関わり、人々の心の中に脈々と伝えられるのだと信じられますので私は考え込んでいます。

だが、胡弓で演奏され又三絃にも移された頃から世に広まった「歌系図」(天明三年版)に書いてあるそうです。(生田・山田両流筆唄全解・今井通郎著より)更にあとから歌詞が上品なものになり、替手もつけられ、現在に至り、生田流は本調子、山田流は雲井調子を用いています。「黒髪」の作者についても諸説ありますが、天明四年十一月江戸、中村座の芝居のために作曲され、それが後に大阪で地唄に直されたという説が強いようです。

今夕は、地歌と違う分野の声の専門家達の新しい意図を加えることにより、何かが顕われてくるのではないかと楽しみにしています。又、私たちも多に競い合って何かを探り当てたいと思っています。

現在古典と呼ばれる曲の生い立ちを調べてみますと、それが最初に作られた形に止まらず、後々の優れた人々によって新しい生命が吹き込まれてきていることが判ります。「八千代獅子」の作者たちを御覧下さい。始めは「獅子おどり」を唄った尺八の曲でし

「吾妻獅子」も、三絃替手を名曲「八重衣」の作者石川勾当がつけています。このようにお互いに触発されて自己を表現しようとするこれらの行為が私には大変な魅力です。その頃は、作曲家と演奏家が同一人物であつ

日本音楽集団推薦
 琴・三絃専門
琴光堂和楽器店
 〒156 東京都世田谷区赤堤 2-25-7
 ☎ 東京 03 (328) 2802
 横浜 045 (363) 5448